

27 間伐を進めるための一考察

宮古営林署 収穫係長 ○十 文字 勝 行
 森林官 野 場 和 彦
 " 中 野 雄 一

1 はじめに

森林官にとって、収穫調査はウェートの大きい業務のひとつであり、その中でも間伐の調査が最も頭の痛い業務である。

当署では、人工林のうちⅥ令級以下が90%と育成途上にあることから、間伐比率が年々高くなっていく実状にある。しかも、木材業界が厳しい環境下にある中において、間伐林分の販売はなかなか容易ではない。

そこで、どうしたら少しでも間伐の趣旨に沿った収穫調査ができるかについて考えてみる必要があると考えたのである。

当署の管轄区域は、北部陸中海岸国立公園の一部を担っている太平洋沿岸地帯にあり宮古市・山田町・新里村の一市一町一村で国有林面積は21,100haであり、機能類型別面積(表1)は国土保全林が1,600haで全体に占める比率が7%・自然維持林1,200haで6%・空間利用林1,500haで7%・木材生産林16,800haで80%となっていて、施業対象林分の比率が高い営林署といえる。

人工林の樹種別面積(表2)は、スギが1,600haで全体に占める比率が16%、アカマツ6,600haで65%・カラマツ1,450haで14%・その他571haで5%となっており、アカマツが半分以上であるから、当署ではアカマツが重要なポイントになる。なお、その他の中身はクリ・ナラ・ヒノキなどである。

これを令級別(表3)にみると、Ⅲ令級からⅥ令級が突出していて、Ⅵ令級以下が全体面積の90%を占めている。このことは、今後初回間伐を主体にして、年々間伐が増加していくことを示しているといえるのである。

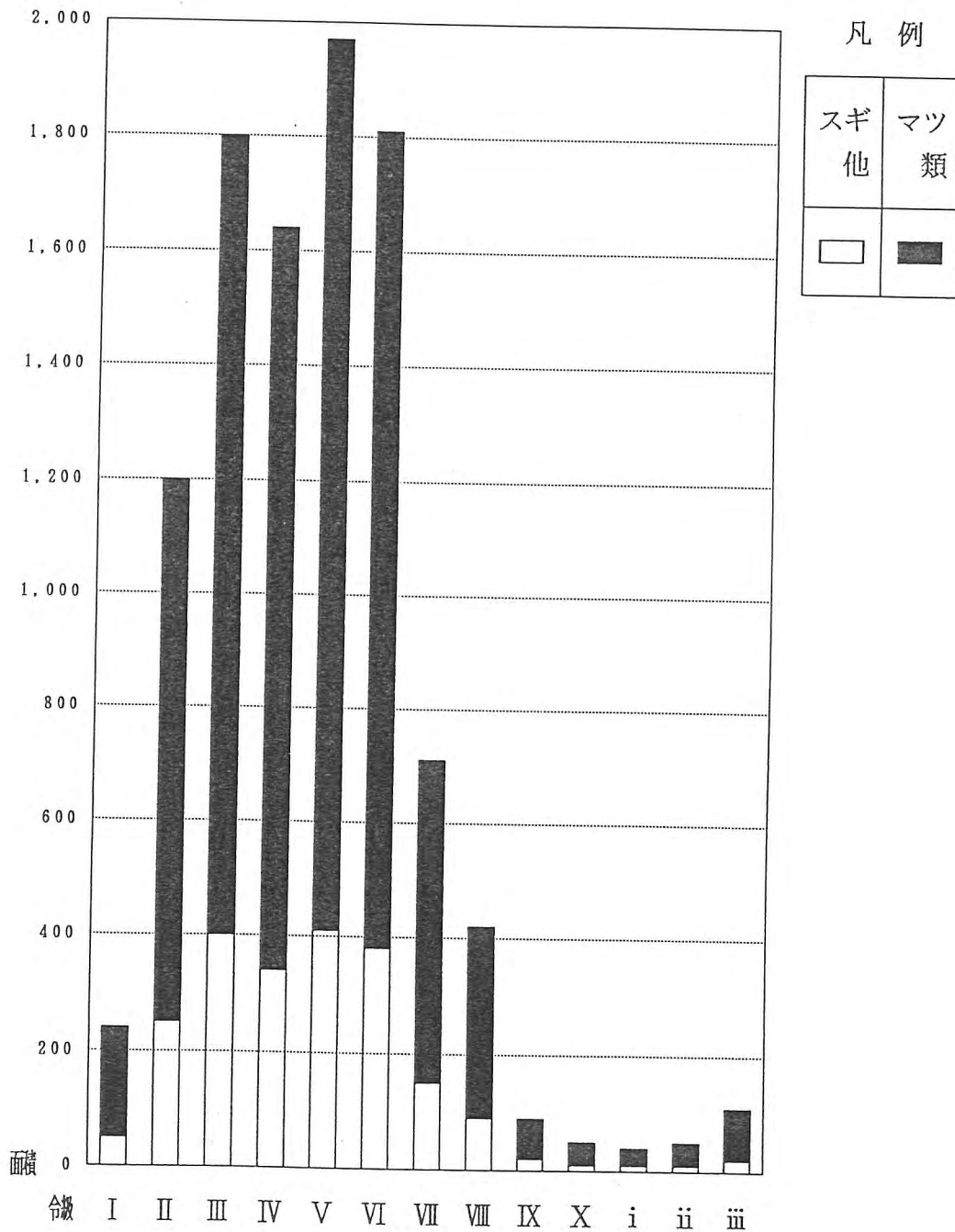
表1 機能類型別面積

区 分	国土保全林	自然維持林	森林空間 利 用 林	木材生産林	計
面積(ha)	1, 6 0 0	1, 2 0 0	1, 5 0 0	1 6, 8 0 0	2 1, 1 0 0
比率(%)	7	6	7	8 0	1 0 0

表2 人工林樹種別面積

区 分	スギ	アカマツ	カラマツ	その他	計
面積(ha)	1,600	6,600	1,450	571	10,221
比率(%)	16	65	14	5	100

表3 人工林令級別面積



このような背景にある当署において、今後積極的に間伐を進めるためには先ず「どんな問題点があるのか」について注目した。

2 間伐を進めるための問題点

- (1) 地形が急峻であるため、トラック・トラクタ道の作設が困難であり、搬出が容易でないことからコスト高となること。
- (2) 初回間伐対象林分を多く抱えていることから、どうしても低質材の比率が高くなり搬出コストを吸収しきれないこと。
- (3) パルプ・チップ材の需要が減少していること、などから間伐林分の販売不振につながっていること。

このように間伐対象林分をめぐる情勢は厳しい中にありますから、長い間に特に初回間伐の販売についてはあきらめの感があり取り組みも弱かったこと、などから調査命令と実行率に乖離が生じ、計画量確保のための追加命令を繰り返すこととなって、その結果見込み掲上の慢性化となって表れることになったものと考えている。

しかし、いかに容易でないとはいえ、間伐は欠くことの出来ない作業であり、間伐対策を考えると、まず前提となるのは販売出来るかどうかで、如何にしたらそれが可能になるか、であろう。

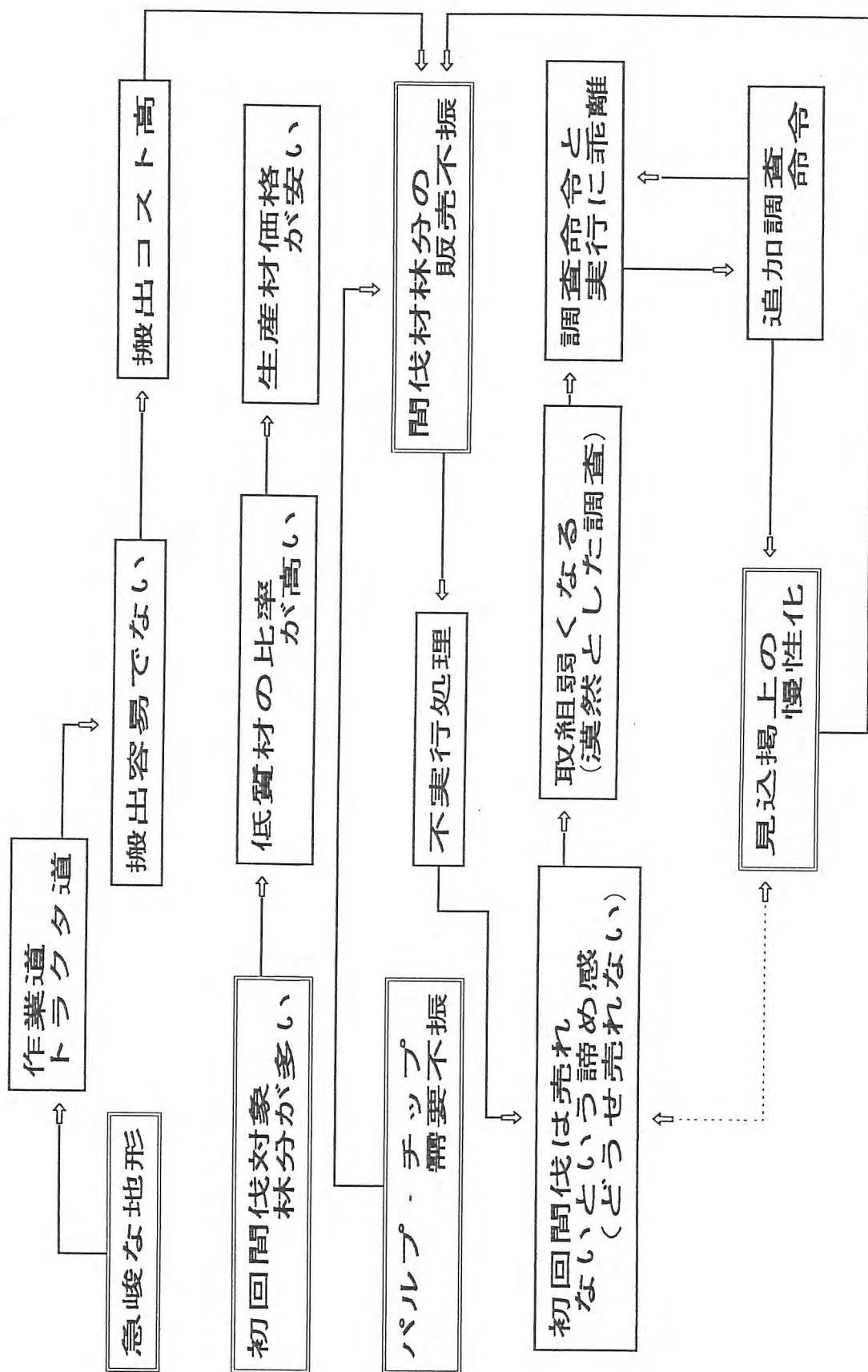
このためには、買っていただく側の意向を正確に捉え、それを収穫調査等に生かして行くことが重要だと考えた。「お客さまは神様」の心を持って対処することが肝要なのである。

これらについて、地元業界はどう考えているのであろうか。

3 地元業界に対するアンケート調査結果

調査方法は国有林と取り引きのある事業体5社を調査対象に、アンケート方式とし、その他に意見・要望を加えていただいた。

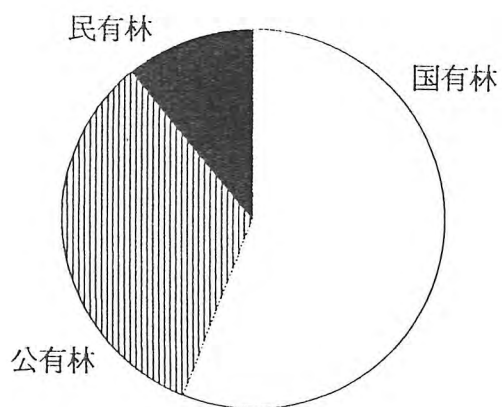
間伐を進めるための問題点



(1) 購入先 (重複回答)

国有林	56%
公有林	33%
民有林	11%

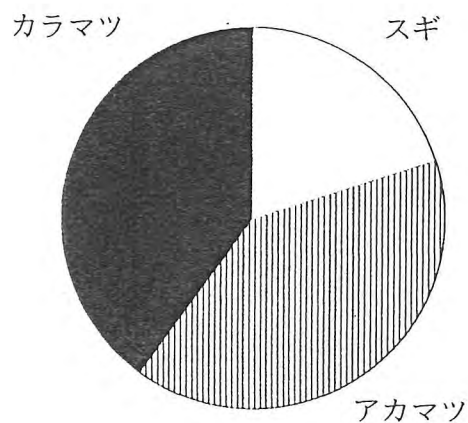
購入先



(2) 購入樹種 (重複回答)

スギ	20%
アカマツ	40%
カラマツ	40%

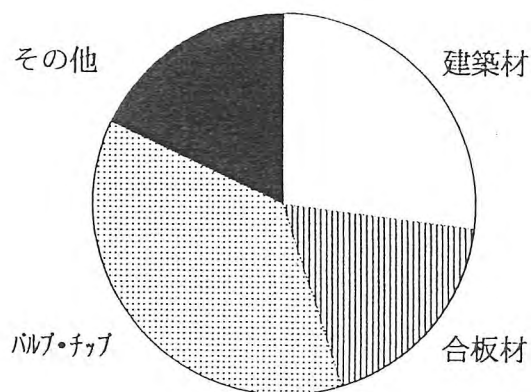
樹種



(3) 用途

建築材	27%
合板材	18%
パルプ・チップ	37%
その他	18%

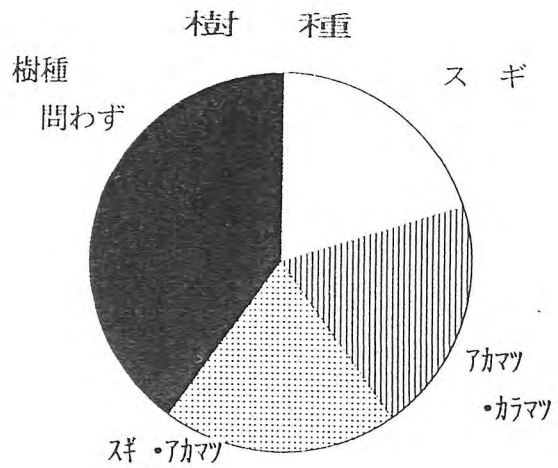
用途



(4) 間伐に対する意見・要望

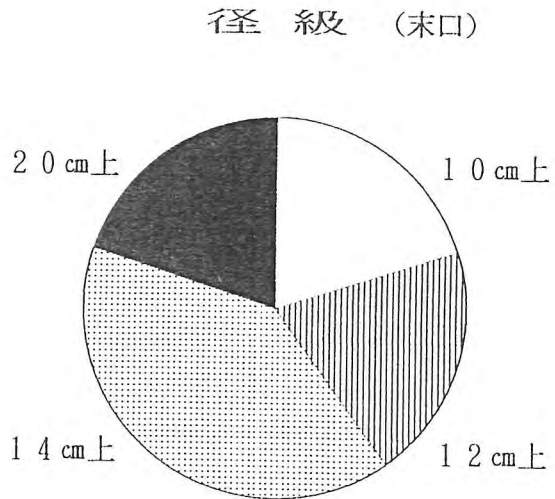
ア 樹種

スギ	20%
アカマツ・カラマツ	20%
スギ・アカマツ	20%
樹種問わず	40%



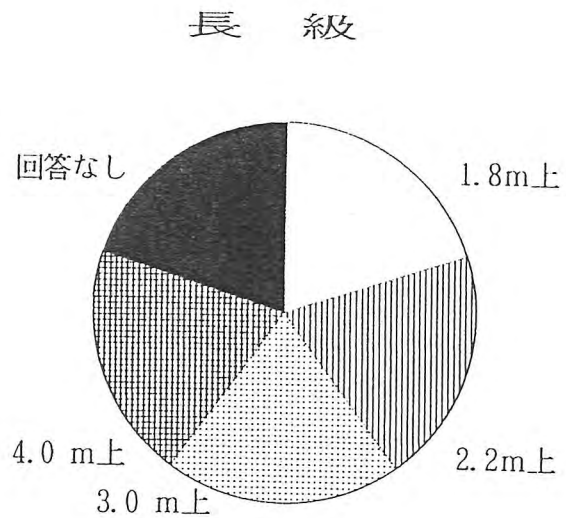
イ 径級

1.0 cm以上	20%
1.2 cm以上	20%
1.4 cm以上	40%
2.0 cm以上	20%



ウ 長級

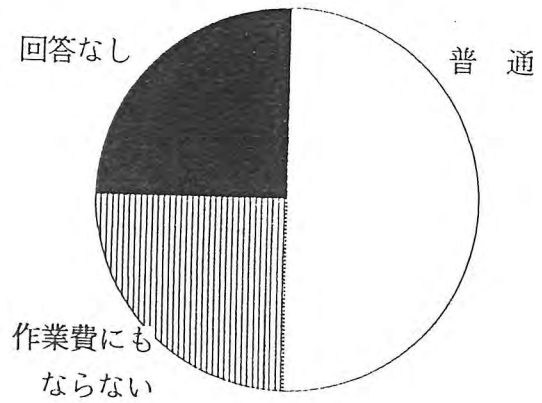
1.8m以上	20%
2.2m以上	20%
3.0m以上	20%
4.0m以上	20%
回答なし	20%



エ 販売価格

普通	50%
作業費にも ならない。	25%
回答なし	25%

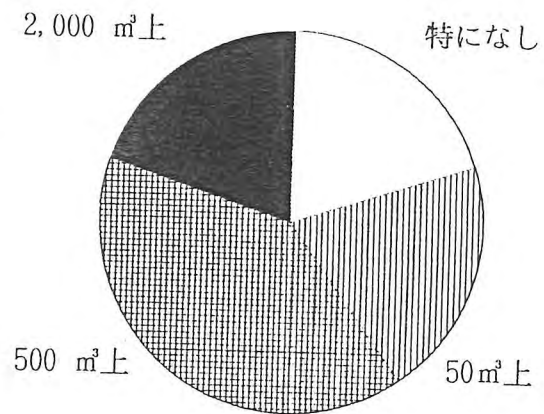
販売価格



オ 数量 (一畝あたり)

特になし	20%
50 m ² 以上	20%
500 m ² 以上	40%
2,000 m ² 以上	20%

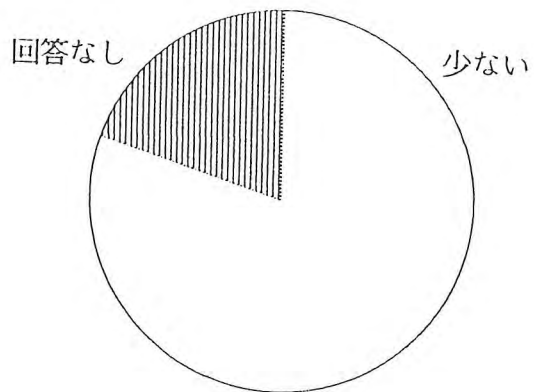
数量



カ 伐採率

少ない	80%
回答なし	20%

伐採率

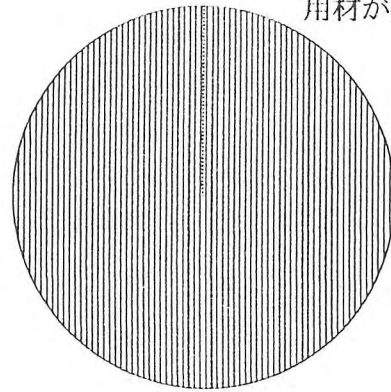


キ 調査木

用材が 100%
少ない。

調査木

用材が少ない

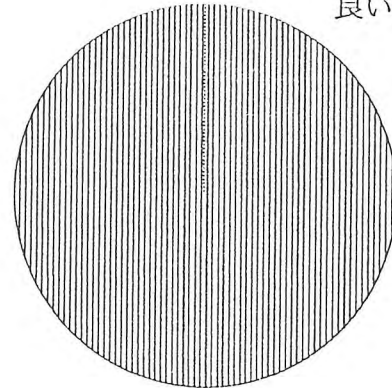


ク 区域表示

良い 100%

区域表示

良い



ケ 契約時期

4月頃 20%

7月頃 20%

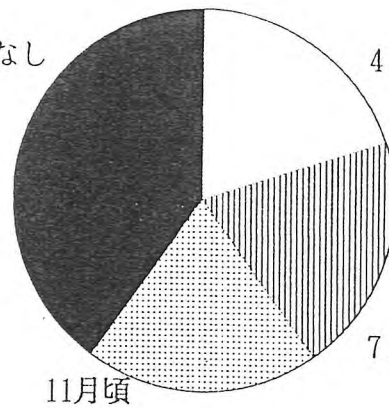
11月頃 20%

特になし 40%

契約時期

特になし

4月頃



コ 搬出期間

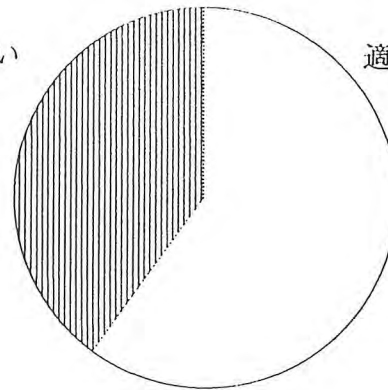
搬出期間

適 当 60%

短 い 40%

短 い

適 当



(5) その他の意見・要望等

- ア 5本に1本は柱適材
- イ 搬出期間は18ヶ月以上
- ウ 初回間伐はすべて列状間伐
- エ 初回間伐は造林請負
- オ 若者確保のため、大型機械の導入できる方法
- カ 間伐よりも除伐
- キ 林業従事者確保のため、コンスタンスな事業量
- ク 列状間伐は、残った列にも間伐
- ケ 残存木の間隔を3m程度
- コ もっと優勢木を調査
- サ 伐倒特約条件を削除
- シ 間伐作業道の作設
- ス 伐採率より何を残すが主体
- セ 不採算林分は強度な間伐一回で終わることが必要
- ソ 生産者・加工利用者・公的利用などを一体化させた政策
- タ 支障木の調査から契約までの簡略化・省略化
- チ 官民一体となった木材需要拡大策

この結果をもとに、間伐を進めるためにはどうしたらよいかについて考察してみた。

まず、当署の地形的条件からトラクタ集材等で搬出できる箇所と集材機でなければ搬出できない箇所に大別した。その理由はトラクタ等で搬出可能な箇所は間伐として販売が可能な箇所として位置付られ、集材機でなければ搬出できない箇所は、残存立木の保全のこともあり販売が困難な箇所と言えるからである。

4 販売可能な箇所について

- (1) 一般材の比率をできるだけ高くすること。

一般材の比率が高いと採算上有利になるので、アンケート結果にあるように20%～30%位は入るような調査をする必要がある。

場合によっては、例えばアカマツ・カラマツ林分などは、採算ベース林分になるまで間伐を見合わせることも必要かと思われる。

- (2) 1団地のまとまりをできるだけ多くすること。

間伐だけでなく主伐であっても数量にまとまりがある方がコスト的にも有利であるから、1団地の数量はできるだけ多くなるように個々の小班単位だけでなく、流域全体をみた面的な考え方で実施する必要もあると考える。

- (3) 間伐要領の適用を徹底すること。

アンケート結果を間伐要領に当てはめてみると、ほとんどがカバーできていると考えている。

つまり、実際は間伐要領のとおり調査していないことを指摘されたもので、いまさらながら反省させられる結果となった。今後、現地協議会等を開くなどして徹底していく必要があることを痛感した次第である。

- (4) 除伐段階から劣勢木を処理すること。

現在の間伐は、残存立木の保全管理等の問題（誤盗伐の未然防止等）もあって、丸太にならないようなものまで機械的に調査する傾向にあるが、このため劣勢木の比率が相当高くなり、一般材の比率が低くなる。

このようなものは、予算的措置が可能な除伐または保育間伐で除去するなどして、いわゆる間伐時には一般材比率が高くなるようにしていくのが本来的であろう。

- (5) 間伐林道等、林内トラック道の作設を検討すること。

間伐を進めるためには、トラック道が重要になるのは言うまでもない。幹線的な林内作業道（トラック道）を間伐林道として作設すること、できれば除伐段階で作設できれば更に有効である。

(6) 調査方法の簡略化を図ること。

収穫調査に要する日数・人員は特に間伐調査の場合非常に多くかかるのが現実である。最近、相当簡略化されてはいるが更に一層の簡略化を目指し、極端なことを言えば、収穫調査は周囲測量だけにし、立木の調査を一切しないような手法はないものか、検討しているところである。

5 販売困難な箇所について

集材機でなければ搬出困難な箇所については、除伐段階から本数調整又は保育間伐、あるいは混合契約による実行で本数調整をする必要があると考える。

また、このような箇所は結構風の影響があるところ多いため、広葉樹の配置などにも十分に配慮する必要がある。

6 最後に

以上、実際の・具体的な手法を見いだせなかったが、裏返して言うとそれだけ難しい問題であった。今後とも具体的な掘り下げをして行く考えである。